

佐伯区のまちづくりの方向性等について



1 佐伯区の 10 年間の主な出来事

- 佐伯区全体の人口はほぼ横ばい。

平成 20 年（2008 年）4 月末	平成 30 年（2018 年）4 月末	増減
136, 141 人	138, 661 人	2, 520 人増

- 湯来町合併から 10 年以上が経過。
旧湯来町の人口は合併時から約 2, 000 人減少。

平成 17 年（2005 年）4 月末	平成 30 年（2018 年）4 月末	増減
7, 794 人	5, 925 人	1, 869 人減

- 石内北地区、石内東地区及び楽々園地区で大規模な宅地開発や住宅建設が進んでいる。また、石内東地区には大規模商業施設が立地した。
- 五日市港の埋め立て地に多くの企業が進出するとともに、平成 25 年（2013 年）から大型クルーズ客船の寄港が始まる。
- 国民宿舎湯来ロッジ改装開館、湯来交流体験センター開館（平成 21 年（2009 年））
- 佐伯区役所別館開館（平成 24 年（2012 年））
- 佐伯警察署開署（平成 25 年（2013 年））
- 区の木「桜」、区の花「コスモス」制定（平成 26 年（2014 年））
- 一般国道 433 号（大古谷～川角）が開通（平成 30 年（2018 年））するなど、道路整備が進んだ。



2 第 5 次広島市基本計画（現行計画）に基づく佐伯区の実施状況

広島市では各区の実施状況として、平成 21 年度（2009 年度）から、第 5 次広島市基本計画の将来像を実現するための施策として掲げた「魅力向上プロジェクト」などに取り組んでいます。

平成 24 年度（2012 年度）には、「魅力向上プロジェクト」などを包含する「区の魅力と活力向上推進事業」を創設し、住民の主体的かつ継続的な活動を効果的に支援することにより、地域特性を生かした個性豊かで魅力と活力のあるまちづくりの推進に取り組んでいます。

佐伯区における主な実施状況については、表 1 のとおりです。

表1 現行計画に基づく佐伯区の取組状況

第5次広島市基本計画の将来像

海・川・山、いで湯や歴史・文化を生かしたまち

＜施策展開の基本的方向＞

自然・温泉・歴史・文化など豊富な地域資源を活用し、区民と行政の協働により、区民の「ふるさと意識」が一層広がるようなまちづくりを進める。

【お宝ネットワーク事業】

- 地域の歴史・文化資源を巡る散策会の開催
- 地域の新たな魅力を発掘するまちづくり講座の開催 など

安全・安心な暮らしを支え合うまち

＜施策展開の基本的方向＞

区民と行政が協働して、子ども・高齢者の見守り体制の確保や防犯・防災力の強化、地球温暖化などの環境問題に取り組むとともに、地域コミュニティの活性化や住民同士の交流を図ることにより、安全・安心な暮らしを支え合うまちづくりを進める。

【わがまち自慢づくり事業】

- 石内川ホテル再生事業
- 岡の下川シジミ再生事業

【まごころネットワーク事業】

- 子育て支援ネットワーク会議の開催
- 区民健康ウォーキング大会の開催 など

人が集い交流する、うるおいのある元気なまち

＜施策展開の基本的方向＞

イベント・祭りなどの地域活動や自然、観光などの多様な資源、市街地の都市機能を生かし、区の内外から多くの人が集い交流する、うるおいのある元気なまちづくりを進める。

【生き生き交流事業】

- わくわく農園づくり事業
- 海山交流体験事業 など

区の魅力と活力向上推進事業
(平成24年度(2012年度)～)

地域資源を生かしたまちづくり

＜施策の方向性＞

海、川、山、温泉などの豊かな自然環境や地域の魅力ある歴史や文化等の地域資源を活用したまちづくりを進める。

＜個別事業＞

- 湯の山温泉・旧湯治場の利活用の促進(平成25年度(2013年度)～)
- 湯来こんにやく学校立ち上げ支援(平成25年度(2013年度)) など

地域力を高めるまちづくり

＜施策の方向性＞

住民が交流し、地域コミュニティをはぐくみ、支えあうまちづくりを進める。また、住民が主体的に活動するまちづくりを進める。

＜個別事業＞

- 住宅団地の活性化(平成26年度(2014年度)～)
- 中山間地域での集落の活性化(平成24年度(2012年度)～)
- 町内会の加入促進(平成25年度(2013年度)～)
- 湯来地区の活性化(平成24年度(2012年度)～)
- 区民主体のまちづくりの推進(佐伯区まちづくり百人委員会)(平成24年度(2012年度)～) など

人が集い交流するまちづくり

＜施策の方向性＞

都市機能や自然、歴史などを生かし、イベント、祭りなどの地域活動、観光の振興などを進め、活発な交流やにぎわいのあるまちづくりを進める。

＜個別事業＞

- にぎわい創出プロジェクト(平成24年度(2012年度)～平成25年度(2013年度))
- 平清盛と佐伯景弘(平成24年度(2012年度)～平成25年度(2013年度))
- 区の木、区の花でまちづくり(平成25年度(2013年度)～)
- さえきフラワー・プロジェクト(平成25年度(2013年度)～)
- アートフェスタ佐伯区(平成24年度(2012年度)～)
- 五日市駅自由通路の活性化(平成26年度(2014年度)～)
- おもてなしの花づくり(平成25年度(2013年度)～)
- 佐伯区の観光振興(平成25年度(2013年度)～)
- 近隣市町との連携によるまちづくり(平成28年度(2016年度)～)
- 大型クルーズ客船の寄港を生かしたまちづくり(平成27年度(2015年度)～) など

3 佐伯区のまちづくりの方向性の検討方法（事務局案）

佐伯区のまちづくりの方向性の検討に先立ち、区の現状と課題を議論するに当たり、地域によって置かれている状況や抱えている課題は異なるにも関わらず、最初から、区全体の現状と課題を議論することは困難であると思われます。

そこで、佐伯区を大きく特徴的な次の3つの地域に分け、まず、それぞれの地域の現状と課題及びその対応策の方向性を議論していただきたいと思います。

- 中山間地域（上水内、水内、砂谷など）
- 住宅団地（五月が丘、美鈴が丘、藤の木、彩が丘、杉並台など）
- 市街地（五日市中央、五日市東、五日市南、五日市観音など）

そこから、地域ごとの対応策の方向性を分野別に区分し、地域間で共通する分野に整理することで、地域の枠を超えた共通の方向性として区のまちづくりの方向性をまとめることが可能であると考えました。

まず、地域の現状と課題を分析するに当たり、それぞれの地域の状況について、まちづくり懇談会委員の皆様へ事前にアンケート調査を実施した結果に、事務局の気付きを加えて整理しました。（表2のとおり）

なお、アンケート結果の詳細は、参考資料5「委員への事前アンケート集計結果」を参照してください。

表2 委員への事前アンケート集計結果（概要）

地域	状況
中山間地域	・空家が増えた。（14 票） ・荒廃した農地、林地が増加した。（農林業従事者が減った。）（13 票） ・少子化・高齢化が進行した。（自由記入） ・豊かな自然（山林、田園風景、温泉）や魅力ある歴史、文化がある。（事務局）
住宅団地	・スーパーや商業施設が減った。（7 票） ・ふるさと意識が希薄になった。（6 票） ・空家が増えた。（5 票） ・バスが減便された。（4 票） ・少子化・高齢化が進行した。（自由記入）
市街地	・新しいマンションや戸建住宅の住民が増えているが、交流が少ない。（10 票） ・町内会加入率が低迷している。（10 票） ・商店街が衰退してきている。（8 票） ・外国人の住民が増えてきている。（自由記入） ・近所付き合いが希薄になってきている。（自由記入） ・充実した都市機能と豊かな自然（海、川）がある。（事務局）
共通	・地域活動の担い手が不足している。（計 18 票） ・自然災害の不安が増した。（計 12 票） ・地域外との交流が少ない。（計 9 票） ・公民館などの身近な地域資源が豊富である。（事務局）

4 地域ごとの現状と課題及びその対応策の方向性（事務局案）

委員への事前アンケート調査の結果を踏まえ、地域ごとの現状と課題及びその対応策の方向性を表3のとおり整理し、表4のとおり地域ごとの対応策の方向性（キーワード）を分野別に区分しました。

表3 地域ごとの現状と課題及びその対応策の方向性

地域	現状と課題	対応策の方向性
中山間地域	旧湯来町を中心とした中山間地域は、山、川などの豊かな自然や魅力ある歴史、文化等の地域資源に恵まれている一方で、少子化・高齢化、人口減少の進行により、空家や荒廃した農地、林地が増加している。 このため、空家の増加を食い止めることや空家の放置が長期間続かないような取組が必要である。また、継続的な農地、林地の維持管理や、荒廃した農地などの再生に取り組む必要がある。	地域外からの定住を促進するとともに空家を有効活用する。 また、豊かな自然環境を維持し、魅力ある歴史や文化等の地域資源（湯来ロッジ、湯の山明神等）を継承することにより、近隣の町（安芸太田町・北広島町）・区（安佐南区）と連携しながら、それらを活用した観光の振興を図る。 さらに、農林業就労者の増加に向けた取組や荒廃した農地などの活用を進めるとともに、集落の活性化に取り組む。
住宅団地	ほとんどの住宅団地は完成から30～40年以上が経過し、高齢化が一斉に進行している。また、住民のふるさと意識が希薄となっており、少子化及び人口減少も同時に進行し、スーパーや商業施設の撤退、バスの減便等が問題となっている。 今後、住み続けられるまちづくりを進めていくためには、ふるさと意識の醸成や買物弱者の対応に取り組む必要がある。	住民のふるさと意識が高まるような地域活動を促進し、若年世代（子・孫世代）のUターンによる住宅団地の活性化を図る。 また、定期的な朝市の運営やネットスーパー等の普及促進など、商業機能を補完する取組を進めるとともに、乗り合いタクシー等の移動手段の導入に取り組む。
市街地	区の南側を中心とした市街地においては、充実した都市機能や豊かな自然などに恵まれ、新しいマンションや戸建住宅の住民、外国人の住民が増えている一方で、町内会加入率の低迷が続き、住民同士が交流する機会が減っている。 このため、住民がお互いに支え合うことができる社会を実現するために、隣近所、世代間、異文化間の交流を促進する必要がある。 また、充実した都市機能を生かし、広域的な視点でのにぎわいづくりにも取り組む必要がある。 さらに、大規模小売店舗の出店等により商店街が衰退してきているため、商店街の活力向上を図る必要がある。	外国人と共生するための環境整備を進めるとともに、住民の誰もが都市の利便性を享受できるまちづくりを進める。 また、豊かな自然などの地域資源（八幡川、コイン通り、植物公園等）を活用したまちづくりを進め、三世代交流の促進による地域活性化を図るとともに、町内会の加入促進に取り組む。 さらに、近隣の市（廿日市市・大竹市）・区（西区）と連携したにぎわいの創出や、各種イベントの実施等により、コイン通り商店街などの振興に取り組む。
共通	公民館などの身近な地域資源が豊富にあるが、地域活動の担い手が不足しており、地域コミュニティの活力低下と希薄化が懸念される。 このため、町内会役員などの固定化、高齢化への対応が必要である。 また、地域外との交流が少ないため、来訪者の増加に向けた取組が必要である。 さらに、近年、自然災害が頻発していることから、災害への不安が増しており、平常時から災害への備えが必要である。	地域資源を活用した地域住民による主体的かつ継続的なまちづくり活動の支援に取り組むとともに、まちづくりに携わる人材育成を推進する。 また、近隣市町・区と連携し、観光資源等を活用した交流人口の増加に取り組む。 さらに、住民が安心して暮らせる、災害に強い安全・安心なまちづくりを進める。 こうした取組により、地域共生社会の形成やまちのにぎわいの創出を図る。

表4 地域ごとの対応策の方向性（キーワード）の分野別区分

地域	対応策の方向性（キーワード）	分野
中山間地域	・地域外からの定住促進。	本庁対応分※
	・空家の有効活用。	【コミュニティ】
	・自然・歴史・文化を生かしたまちづくり。	【自然・文化】
	・安芸太田町・北広島町及び安佐南区と連携した観光の振興。	【経済・観光】
	・農林業の振興。	本庁対応分※ 【自然・文化】
	・集落の活性化。	【コミュニティ】
住宅団地	・住民のふるさと意識が高まるような地域活動の促進。	【コミュニティ】
	・若年世代（子・孫世代）のUターンによる団地の活性化。	本庁対応分※
	・新たな移動手段の導入。	【生活基盤】
	・商業機能を補完する取組。	【生活基盤】 【経済・観光】
市街地	・外国人と共生するための環境整備。	本庁対応分※
	・都市の利便性を享受できるまちづくり。	【生活基盤】
	・自然などの地域資源を生かしたまちづくり。	【自然・文化】 【経済・観光】
	・三世代交流の促進による地域活性化。	【コミュニティ】
	・町内会加入促進。	【コミュニティ】
	・廿日市市・大竹市及び西区と連携したにぎわいの創出。	【経済・観光】
	・コイン通り商店街などの振興。	【経済・観光】
共通	・地域資源を活用した地域住民による主体的かつ継続的なまちづくり活動の支援。	【コミュニティ】
	・まちづくりに携わる人材育成の推進。	【コミュニティ】
	・近隣市町・区と連携し、観光資源等を活用した交流人口増加への取組。	【経済・観光】
	・災害に強いまちづくり。	【自然・文化】 【生活基盤】

※ 本庁対応分とは、全市的な課題として本庁の所管課で対応するものであり、区としては、本庁への働きかけを行い、課題解決に向けた土台（受皿）づくりに取り組むものです。

（参考）分野別の項目数（重複あり）

【自然・文化】：4 【生活基盤】：4 【コミュニティ】：7
【経済・観光】：6 本庁対応分：4

5 ⑤「区のまちづくりの方向性」(事務局案)

第5次広島市基本計画(現行計画)の将来像及び区の魅力と活力向上推進事業のテーマを踏まえ、表4で分野別に区分した対応策の方向性を地域間で共通する分野に整理し(ただし、本庁対応分を除く。)、地域の枠を超えた共通の方向性を区のまちづくりの方向性としてまとめました。

まちづくりの方向性① 自然と共生し、歴史・文化を体感できるまちづくり

概要

自然・文化

海、川、山、温泉などの豊かな自然環境を維持、活用するとともに、歴史や文化等の魅力ある地域資源等を承継、活用したまちづくりを進める。

まちづくりの方向性② 人に優しく、快適で安全・安心なまちづくり

概要

生活基盤

誰にでも優しく、快適で暮らしやすい環境づくりを進めるとともに、お互いに支えあう安全で安心なまちづくりを進める。

まちづくりの方向性③ 地域力を高め、元気で活力のあるまちづくり

概要

コミュニティ

地域コミュニティをはぐくむとともに、身近な地域資源を活用した住民の主体的かつ継続的な取組を進め、元気で活力のあるまちづくりを進める。

まちづくりの方向性④ 人が集い交流する、にぎわいのあるまちづくり

概要

経済・観光

地域資源や観光資源などを活用し、イベントの開催や観光の振興などを進め、活発な交流やにぎわいのあるまちづくりを進める。

6 ⑧「区の目指すべきまちの姿」(事務局案)

さ：ささえあい
え：えがおあふれる
き：きぼうのまち



【現行計画でのキャッチフレーズ】

コラボシティ・佐伯区



住民がお互いに助け合いながら、安全で安心して生活することができ、将来にわたり、笑顔と希望に満ちた、にぎわいのあるまちを目指していこうという思いを表現した。